

二三九五番

行き行きて 逢はむ妹故 ひさかたの 天の露霜  
濡れにけるかも

二三九六番

たまさかに 我が見し人を いかにあらむ よし  
をもちてか また一目見む

二三九七番

しましくも 見ねば恋しき 我妹子を 日に日に  
来れば 言の繁けく

二三九八番

たまきはる 世までと定め 頼みたる 君により  
ては 言繁くとも